



週末の午後は特ににぎわうという1円パチンコ店―北九州
市小倉北区魚町一丁目のBASE小倉で、藤脇正真撮影

ばくち性弱め「共存」狙う

現在の「パチンコ不況」について全日本遊技事業協同組合連合会（全日遊連）は、過度のギャンブル性を嫌ったファンのパチンコ離れが要因と見ている。

うまく当たれば短時間で数万円稼げるが、当たらなければ万札が次々と消える。そんな機種にのめり込む人が増え、パチンコに起因する自己破壊や犯罪、駐車場での乳児

の車内置き去り死事件などが相次いだ。

警察庁は04年、規則改正でギャンブル性の規制を強化。

半日で数十万円も稼げたパチスロ（パチンコ店のスロットマシン）の人気機種は昨年9月までに撤去され、客離れが加速した。

少ないファンを奪い合う過当競争は激しさを増し、昨年だけで2千店近くが消えた。

1円パチンコが北海道から全国に広がったのは、昨年からだ。

パチンコ依存問題の相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」の西村直之代表（精神科医）は、1円ブームについて「店側が、客と共存する形に方向転換し始めた」と評価しつつ「依存状態になる危険性はある程度軽減できるが、弱い刺激でも長期間繰り返せば依存状態になり得る」と警告する。要は「ほどほどに」ということか。